

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

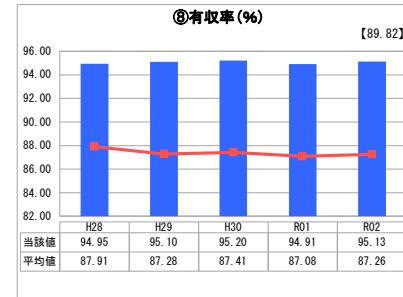
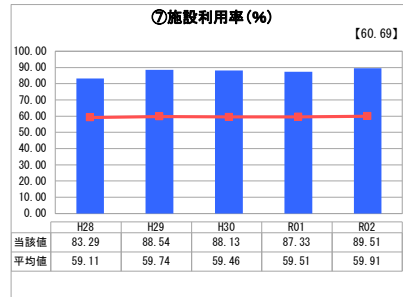
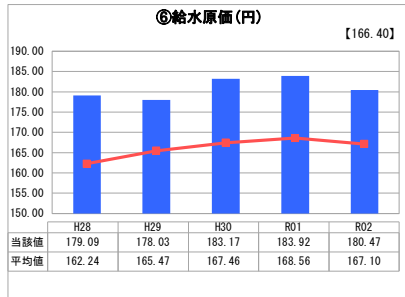
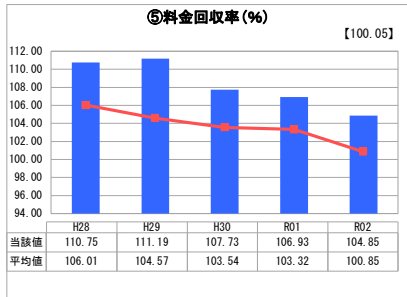
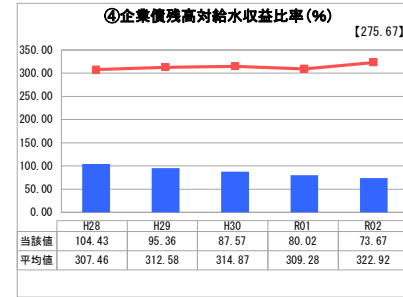
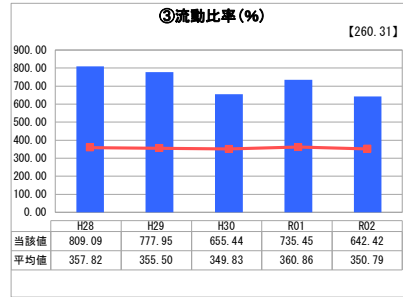
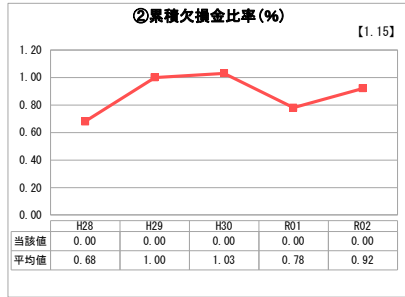
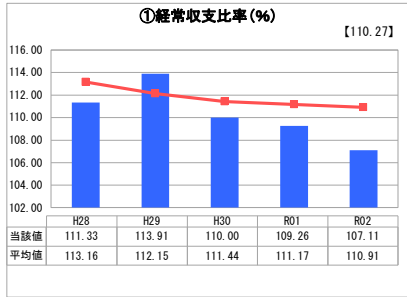
沖縄県 南部水道企業団

業種名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	83.04	100.00	3,484	

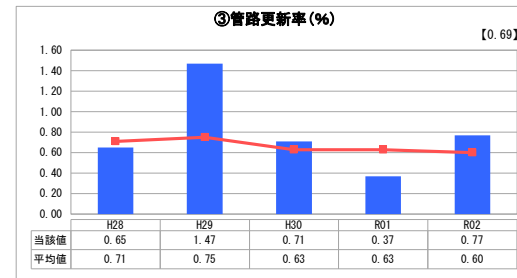
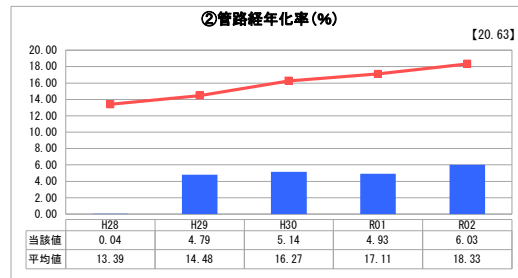
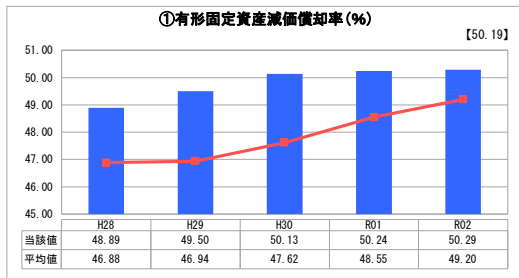
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
72,015	37.72	1,909.20

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率  
100%以上なので黒字ではあるが、今後の施設更新に充てる財源を計画的に確保する為、経営の効率化や費用削減など改善に努める。
- ②累積欠損金比率  
0%なので健全な経営が維持されている。
- ③流動比率  
100%以上を維持しており、良好である。
- ④企業債残高対給水収益比率  
類似団体平均値を下回っているが、今後、事業規模拡大に伴い留保資金が不足することから企業債の借入を予定している。
- ⑤料金回収率  
100%以上を維持しており、適切な料金収入の確保が達成できている。
- ⑥給水原価  
類似団体平均値を上回っており、引き続き維持できるように費用削減などの改善に努める。
- ⑦施設利用率  
一般的に高い方が効率的であるといえるが、今後も人口増加が見込まれ配水量も微増していくと予測される為、現状においては、施設能力に余力がある方が望ましいと分析している。
- ⑧有収率  
類似団体平均値より上回っており、今後も各種漏水防止対策を効果的に実施していく。

### 2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率  
類似団体平均値より高い為、将来の施設更新に取り組む必要がある。
- ②管路経年化率  
類似団体平均値より低い為、今後は、法定耐用年数を更新の基準とはせず、実使用可能年数まで延命化を図り更新することから、上昇していく予定である。
- ③管路更新率  
年度によりばらつきがある為、更新需要の平準化、優先順位の決定により計画的に更新する必要がある。

### 全体総括

当企業団の経営状況については、一定の健全化を確保できていると判断している。  
今後は、施設更新費用が増加することから、将来は厳しい経営環境になると予想される為、経費の削減に努め、計画的な施設更新を行い、安定した水道事業の経営を図る。